Wetmaster®

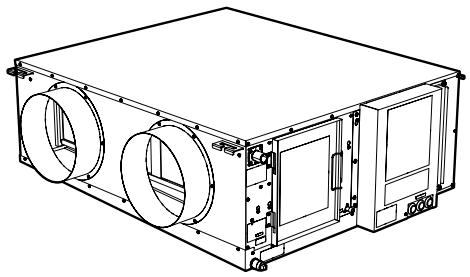
施工業者様向け

単独運転・室内直接加湿
ダクト接続型 滴下浸透気化式加湿器

WM-VIBタイプ

試運転作業要領書

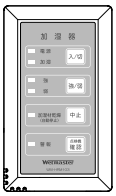
加湿器本体



VIB2700/VIB5200
VIB2700A/VIB5200A

リモコンスイッチ

標準リモコンスイッチ (VKRM-3)
ヒューミ付リモコン (HRM103)



- このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この試運転作業要領書には加湿器の施工およびリモコンスイッチ初期設定が完了した状態において、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい作業を行ってください。
- 本書の内容以外に関する説明は下記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

施工要領書	設定要領書	取扱説明書
加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など、加湿器の施工に関する説明を記載しています。	加湿器運転のために必要な設定手順や、出荷時設定から変更を行う場合の手順について記載しています。	運転動作、運転管理、一般保守要領など、加湿器の取り扱いについてを記載しています。

もくじ

安全のために必ず守ること…… P.1

1 機器構成の確認と参照頁 - 試運転作業の前に -
ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む
1-1 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合 …… P.2
1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合…… P.4
1-3 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合 …… P.5

2 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合
ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む
2-1 試運転準備…… P.6
2-2 試運転手順…… P.7
2-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.7
■試運転チェックリスト …… P.8

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合
3-1 試運転準備…… P.9
3-2 試運転手順…… P.11
3-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.11
■試運転チェックリスト …… P.12

4 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合
4-1 試運転準備…… P.13
4-2 試運転手順…… P.15
4-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.15
■試運転チェックリスト …… P.16

5 警報・試験について
5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について P.17
5-2 警報表示の原因と処置 …… P.17
5-3 停電試験を行う場合 …… P.17

6 参考
6-1 コントロールユニット詳細 …… P.18
6-2 加湿器型番、シリアル番号、ロット番号表示位置…… P.18

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

- 図記号の意味は以下のとおりです。

必ず守る	絶対しない	触らない	濡手禁止 絶対に濡れた手で触らない	水濡禁止 絶対に水に濡らさない

⚠警告

取付工事は、専門業者に依頼する
必ず守る
取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

高所作業時の安全を確保する
必ず守る
高さが２メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

加湿器本体ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う
必ず守る
通電したままの作業は感電の原因になります。

活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する
必ず守る
適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する
必ず守る
電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。

電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
必ず守る
接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。

加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける
必ず守る
漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。

工事部材は付属品および指定の部材を使用する
必ず守る
寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。

作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する
必ず守る
やけど・けがの原因になります。

改造はしない
絶対しない
故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

加湿器本体・リモコンスイッチに水、液体をかけないこと
水濡禁止
ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

濡れた手で電気部品に触ったり、スイッチ・ボタンを操作しない
濡手禁止
感電・事故・発煙・火災の原因になります。

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触らない
触らない
やけど・感電の原因になります。

⚠注意

水道法、消防法等に規制される部材の取り扱いについては、専門業者に依頼する
必ず守る
法令を遵守した施工が必要です。

濡れて困る物の上に加湿器を設置しない
絶対しない
適切にメンテナンスがされていない場合、水もれの恐れがあります。

アース接続（D 種接地工事）を行ってください
必ず守る
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

移動できないものの上に加湿器を設置しない
絶対しない
後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。

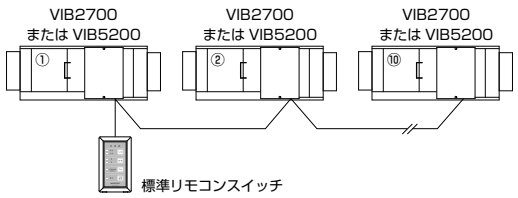
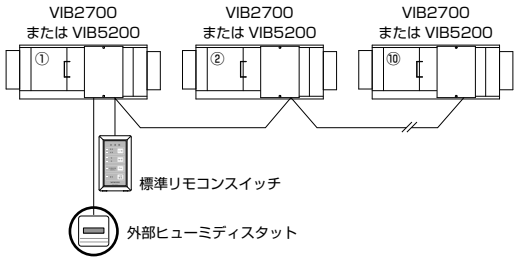
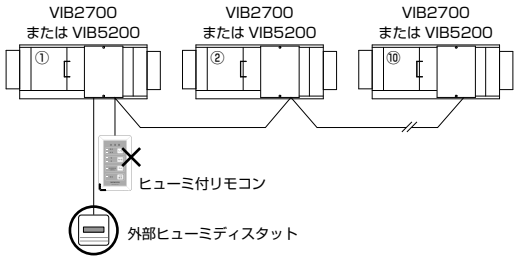
1 機器構成の確認と参照頁　- 試運転作業の前に -

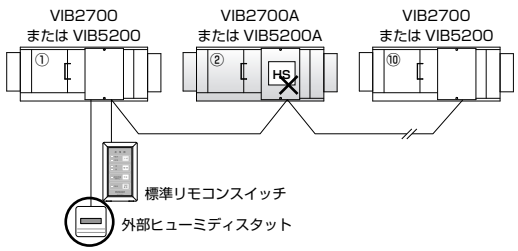
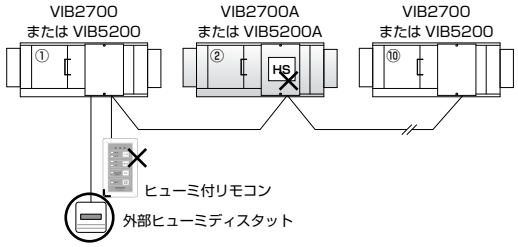
試運転作業の前に P.2 ～ 5 に記載の機器構成を確認し、指示された頁を参照してください。

1-1 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合
（ヒューミディスタットなし、湿度検知をしない場合を含む）

- 外部ヒューミディスタットは客先ご用意となります。
- 下表で表記している下記用語は、次のように定義されています。

VIBタイプ　：VIB2700/VIB5200
VIB-A タイプ：VIB2700A/VIB5200A（加湿器本体内ヒューミディスタット内蔵型）

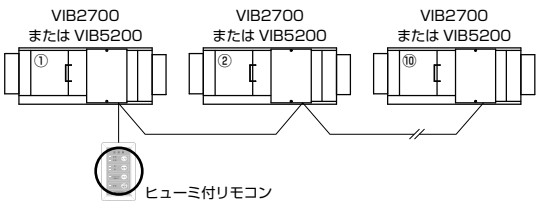
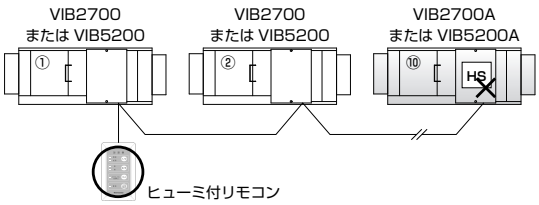
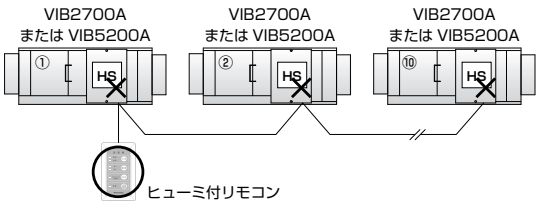
	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
❶	 加湿器　：VIB タイプ リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：行わない	VIB タイプを標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**湿度検知を行わない。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 が短絡されていること。**	**P.6** 参照
❷	 加湿器　：VIB タイプ リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：外部ヒューミディスタット	VIB タイプを標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること。**	**P.6** 参照
❸	 加湿器　：VIB タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：外部ヒューミディスタット	VIB タイプをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること。** ▪ 別冊の設定要領書 **9-3 ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する　制御グループ パターン⊟** に記載されている設定が完了していること。	**P.6** 参照

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
❹	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：外部ヒューミディスタット	VIB タイプと VIB-A タイプを標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること。** ▪ 別冊の設定要領書 **9-2 VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを無効化する　制御グループパターンA** に記載されている設定が完了していること。	**P.6** 参照
❺	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：外部ヒューミディスタット	VIB タイプ VIB-A タイプをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること。** ▪ 別冊の設定要領書 **9-4 VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する制御グループパターンC** に記載されている設定が完了していること。	**P.6** 参照

1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

● 下表で表記している下記用語は、次のように定義されています。

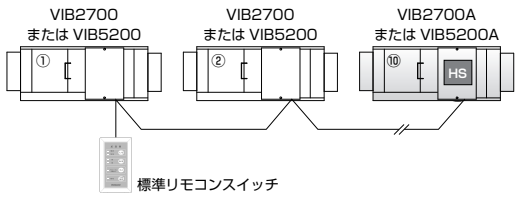
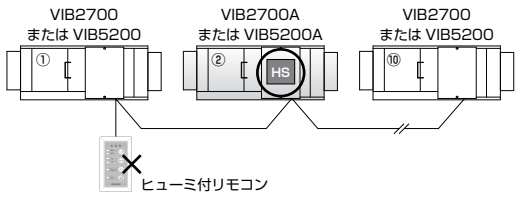
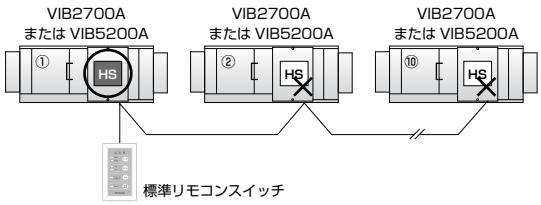
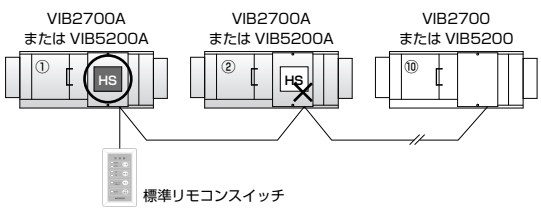
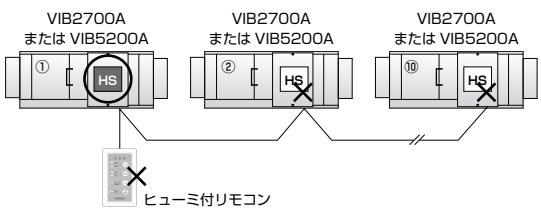
VIBタイプ　：VIB2700/VIB5200
VIB-A タイプ：VIB2700A/VIB5200A（加湿器本体内ヒューミディスタット内蔵型）

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
❻	 加湿器　：VIB タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：ヒューミ付リモコン	VIB タイプをヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.9** 参照
❼	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：ヒューミ付リモコン	VIB タイプと VIB-A タイプをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.9** 参照
❽	 加湿器　：VIB-A タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：ヒューミ付リモコン	VIB-A タイプをヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.9** 参照

1-3 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

● 下表で表記している下記用語は、以下の意味で使用されています。

VIBタイプ　：VIB2700/VIB5200
VIB-A タイプ：VIB2700A/VIB5200A（加湿器本体内ヒューミディスタット内蔵型）

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	試運転作業内容
❾	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ（1 台） リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタット	VIB タイプと VIB-A タイプ（1 台）を標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台の VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.13** 参照
❿	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ（1 台） リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタット	VIB タイプと VIB-A タイプ（1 台）をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**1 台の VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 別冊の設定要領書 **9-3 ヒューミ付リモコン上で湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターンB** に記載されている設定が完了していること。	**P.13** 参照
⓫	 加湿器　：VIB-A タイプ リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタット	VIB-A タイプを標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 別冊の設定要領書 **9-2 VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを無効化する 制御グループパターンA** に記載されている設定が完了していること。	**P.13** 参照
	 加湿器　：VIB タイプ、VIB-A タイプ リモコン　：標準リモコンスイッチ 湿度検知　：VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタット	VIB タイプと VIB-A タイプを標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**		
⓬	 加湿器　：VIB-A タイプ リモコン　：ヒューミ付リモコン 湿度検知　：VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタット	VIB-A タイプをヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ▪ 別冊の設定要領書 **9-4 VIB-A タイプ内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する 制御グループパターンC** に記載されている設定が完了していること。	**P.13** 参照

2 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合

※ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合も本章の内容を参照してください。

2-1 試運転準備

⚠警告

試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。
ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水（点検扉）側に 1˚以内、風下側に 1˚以内の傾きに収めること〕
□ダクトが取り付けられていること
□給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□ヒューミディスタットが無い（湿度検知を行わない）場合はリモコンを接続した加湿器本体の端子 L1,L2 が短絡されていること
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること（必要に応じてフラッシングを実施）
□P.2 ～ 5 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
□加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の設計要件に合っていること（表 -1、表 -2 参照）

表 -1 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

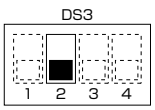
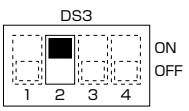
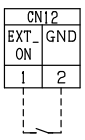
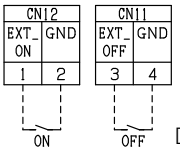
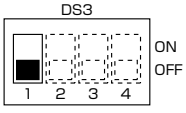
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -2 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力	 通電電圧・電流 DC12V・10mA	 通電電圧・電流 DC12V・10mA
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

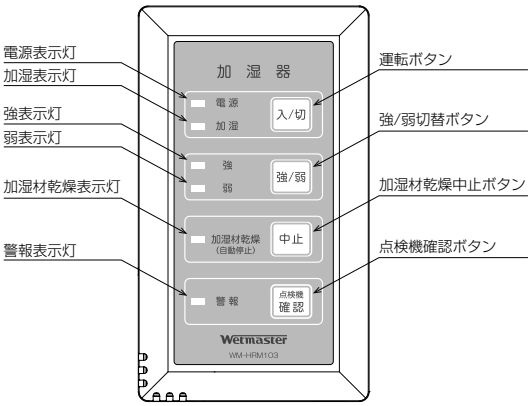
● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

□給水サービス弁を開ける
□ヒューミディスタットの設定を最大にする
□加湿器元電源の漏電ブレーカを遮断した後、ON にして電源を供給する
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する
※リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。
□外部機器との連動運転を行っている場合には、連動用接点入力が ON となるように外部機器を運転する

【動画】
リモコンスイッチ初期設定

2-2 試運転手順

● 準備ができたら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください(次頁の試運転チェックリストをご活用ください)。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約10分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。  ②運転開始の約15分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットのLED10(P.18図-4参照)が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。 ③そのまま30分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。 ④強/弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、ダクトから風が出ていることを確認する。 ⑤ヒューミディスタットの設定目盛りを動かして接点をON/OFFさせ、加湿表示灯が点灯/消灯することを確認する(ファンは加湿器運転開始約10分後に運転を開始します)。 ⑥運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、全ての表示灯が消灯することを確認する。 ⑦全ての表示灯が消灯している状態で、強/弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に3秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください(加湿材乾燥表示灯が点滅)。加湿材乾燥運転は約2時間後に自動終了します。	※運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「加湿要求信号がない(ヒューミディスタットの設定)」、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」などの原因が考えられます。QRコードからFAQを参照し、原因を特定してください。 【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 【Webサイト/FAQ】 「加湿器が運転しない」 ※ドレン排水用ポンプはドレンパンに下記程度の水量が溜まると作動します。 ▪ VIB2700、VIB2700A:約1.3ℓ ▪ VIB5200、VIB5200A:約3.4ℓ ※試運転作業中に、警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニットLEDの点灯状態を確認してください。警報表示の解除と対処方法は、P.17「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。 ※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります(加湿材乾燥表示灯が点灯)。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。

2-3 試運転後の作業と最終点検

● 試運転が終了したら、ヒューミディスタットの設定を希望湿度に合わせてください。

● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体は水平ですか?〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に1°以内、風下側に1°以内の傾き〕
□給水配管からの水もれはありませんか?
□排水配管からの水もれはありませんか?
□排水配管の先下り勾配は確保されていますか?
□各電気配線は正しく接続・固定されていますか?

VIBタイプ 試運転チェックリスト

対象機器：滴下浸透気化式加湿器 WM-VIB2700/5200、WM-VIB2700A/5200A
湿度検知：外部ヒューミディスタットまたはヒューミディスタット無し（湿度検知をしない）

物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（　／　）

- VIB タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VIB2700 または VIB5200、 VIB2700A または VIB5200A	該当する加湿器型番項目にチェック 27：VIB2700　52：VIB5200 27A：VIB2700A　52A：VIB5200A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	加湿器本体の点検扉横のシールで確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定	加湿器本体内基板（コントロールユニット） 上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「電源表示灯と連動」（DS3 2 番ピン OFF） Ⓑ「加湿表示灯と連動」（DS3 2 番ピン ON）	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定	加湿器本体内基板（コントロールユニット） 上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「常時入力信号」（DS3 1 番ピン OFF） Ⓑ「瞬時入力信号」（DS3 1 番ピン ON）	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ	□ Ⓐ □ Ⓑ
④	リモコンスイッチ 初期設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、リモコンスイッチ初期設定がされていません。強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	ヒューミディスタット 接続の有無	加湿器本体端子 L1, L2	ヒューミディスタットが接続されている加湿器の□接続にチェック	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続
			ヒューミディスタット無しで湿度検知をしない場合は、 端子 L1, L2 が短絡されていること	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡
⑥	ヒューミディスタットとの連動確認【起動】	外部ヒューミディスタット （ヒューミディスタット無しの場合は該当しません）	加湿信号 ON によりリモコンスイッチ加湿表示灯が点灯し、 10 分後に本体ファンが起動すること										
⑦	加湿モジュール湿潤 状態の確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑧	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑨	ドレン排水用ポンプ 動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑩	水もれが無いことを確認	加湿器本体 給排水配管	30 分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から 水もれの無いこと										
⑪	ヒューミディスタットとの連動確認【停止】	外部ヒューミディスタット （ヒューミディスタット無しの場合は該当しません）	加湿信号 OFF によりリモコンスイッチ加湿表示灯が消灯し ファンが停止すること										
⑫	加湿材の乾燥	リモコンスイッチ	運転ボタンを押し電源表示灯を消灯させ、運転停止中に強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅すること										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します											

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：　　% RH

✓：実　施
×：未実施
－：該当無し

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

3-1 試運転準備

⚠警告

試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。
ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水（点検扉）側に 1°以内、風下側に 1°以内の傾きに収めること〕
□ダクトが取り付けられていること
□給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること（必要に応じてフラッシングを実施）
□P.2 ～ 5 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
□加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の設計要件に合っていること（表 -3、表 -4 参照）
□連動運転を行う場合は、別冊の設定要領書「4-2 ヒューミ付リモコンで連動運転を行う場合」に記載されている設定が完了していること

表 -3 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

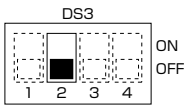
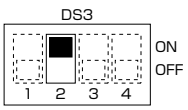
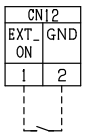
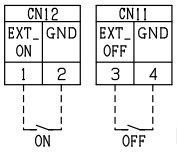
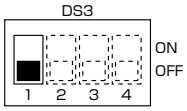
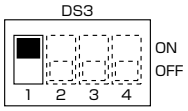
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -4 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力	 通電電圧・電流 DC12V・10mA	 通電電圧・電流 DC12V・10mA
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

⚠警告	**以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC5V、DC12V）となります 必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください** ❗ 適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。
⚠注意	**リモコンスイッチケースの損傷に注意** ❗ リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行ってください。
	基板の取り扱いに注意 ❗ リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。取り扱いの際は基板の損傷に注意してください。また基板へのゴミや水分などの付着は短絡の原因になります。

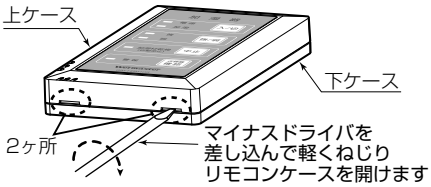
- 試運転開始にあたっては、下記を参照し「試運転モードへの切り替え作業」を行ってください。一時的に試運転モードにすることでリモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットを無効にし、リモコンスイッチのボタン操作により加湿器の運転 / 停止ができるようになります。

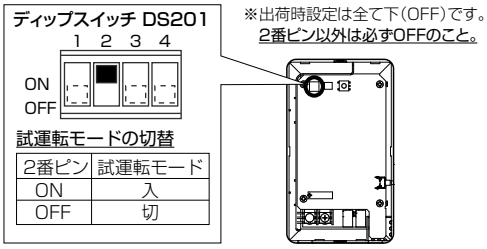
□給水サービス弁を開ける
□加湿器元電源の漏電ブレーカを遮断した後、ON にして電源を供給する
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する
※リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。
□リモコンスイッチケースを開け、上ケース内ユニットのディップスイッチ DS201（2 番ピン）を ON にし、試運転モードを「入」にする（図 -1 参照）
※ 2 番ピン以外は必ず OFF のままとしてください。
□試運転モードへの変更後はリモコンスイッチケースを元通りに閉める
□外部機器との連動運転を行っている場合には、連動用接点入力が ON となるように外部機器を運転する

【動画】
リモコンスイッチ
初期設定

図 -1 試運転モードへの切り替え作業

リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットを無効にし、リモコンスイッチのボタン操作により加湿器の運転 / 停止を可能にします。下記要領で切り替えてください。





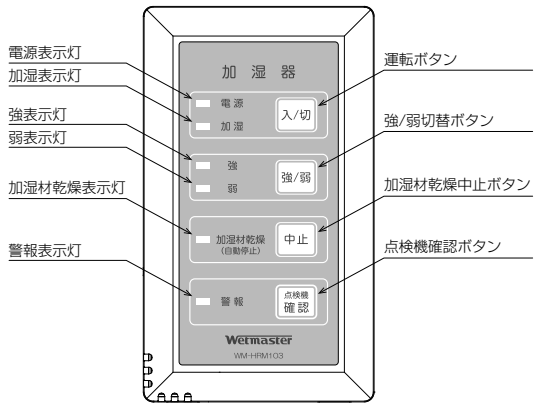
試運転モードの切替

2番ピン	試運転モード
ON	入
OFF	切

※試運転モードを使用せず、ヒューミ付リモコンの湿度検知による試運転を行う場合は、別冊の設定要領書を参照し設定変更をおこなってください。

3-2 試運転手順

● 準備ができたら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約10分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。	※運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」、「外部機器と連動設定されている」などの原因が想定されます。QRコードからFAQを参照し、原因を特定してください。
	【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 【Webサイト/FAQ】 「加湿器が運転しない」
②運転開始の約15分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットのLED10（P.18図-4参照）が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。 ③そのまま30分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。 ④強/弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、ダクトから風が出ていることを確認する。 ⑤運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、全ての表示灯が消灯することを確認する。 ⑥全ての表示灯が消灯している状態で、強/弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に3秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください（加湿材乾燥表示灯が点滅）。加湿材乾燥運転は約2時間後に自動終了します。	※ドレン排水用ポンプはドレンパンに下記程度の水量が溜まると作動します。 ▪ VIB2700、VIB2700A：約1.3ℓ ▪ VIB5200、VIB5200A：約3.4ℓ ※試運転作業中に、警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニットLEDの点灯状態を確認してください。警報表示の解除と対処方法は、P.17「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。 ※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります（加湿材乾燥表示灯が点灯）。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。

3-3 試運転後の作業と最終点検

⚠警告

以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC5V、DC12V）となります
必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください

❗ 適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。

● 試運転が終了したら、下記の作業を行ってください。

① P.10図-1を参照しディップスイッチDS201（2番ピン）をOFFにし、試運転モードを「切」にする
②リモコンスイッチケースを元通りに閉める

● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体は水平ですか？
〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水（点検扉）側に1°以内、風下側に1°以内の傾き〕
□給水配管からの水もれはありませんか？
□排水配管からの水もれはありませんか？
□排水配管の先下がり勾配は確保されていますか？
□各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
□リモコンスイッチの上ケース内ユニットのディップスイッチ（P.10図-1）は全てOFFになっていますか？
□リモコンスイッチケースは閉まっていますか？

VIBタイプ 試運転チェックリスト

対象機器：滴下浸透気化式加湿器 WM-VIB2700/5200、WM-VIB2700A/5200A
湿度検知：ヒューミ付リモコン
物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（　／　）

- VIB タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VIB2700 または VIB5200、 VIB2700A または VIB5200A	該当する加湿器型番項目にチェック 27：VIB2700　52：VIB5200 27A：VIB2700A　52A：VIB5200A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A	□27 □52 □27A □52A
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	加湿器本体の点検扉横のシールで確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定確認	加湿器本体内コントロールユニットの ディップスイッチ DS3	Ⓐ「電源表示灯と連動」（DS3 2 番ピン OFF） Ⓑ「加湿表示灯と連動」（DS3 2 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定 確認	加湿器本体内コントロールユニットの ディップスイッチ DS3	Ⓐ「常時入力信号」（DS3 1 番ピン OFF） Ⓑ「瞬時入力信号」（DS3 1 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
④	リモコンスイッチ 初期設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、リモコンスイッチ初期設定がされていません。強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	「設定確認モード」による ヒューミ付リモコン上の 設定確認	リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコンによる湿度検知に設定されている										
			外部機器との連動設定「無」▶「有」（出荷時設定「連動無し」）	□有	□有	□有	□有	□有	□有	□有	□有	□有	□有
			ヒューミディスタット感度変更「高」▶「低」（出荷時設定「高」）	□低	□低	□低	□低	□低	□低	□低	□低	□低	□低
⑥	運転動作確認【起動】	リモコンスイッチ	試運転モードにおいて、運転ボタン ON で加湿表示灯が点灯、10 分後に本体ファンが起動し、運転ボタン OFF で加湿表示灯が消灯しファンが停止する										
⑦	加湿モジュール湿潤状態確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑧	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑨	ドレン排水用ポンプ 動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑩	水もれが無いことを確認	加湿器本体 給排水配管	30 分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑪	運転動作確認【停止】	リモコンスイッチ	試運転モードの状態で運転ボタンを押すことで、電源表示灯が消灯し、ファンが停止すること										
⑫	加湿材の乾燥	リモコンスイッチ	電源表示灯が消灯している状態で、強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅すること										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します											
⑬	試運転モードの解除	リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン上ケース DS201 の 2 番ピンが OFF										

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：出荷時設定 40% RH から変更　無・有（　　% RH）

✓：実　施
×：未実施
－：該当無し

4 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

4-1 試運転準備

⚠警告

試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。
ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水（点検扉）側に 1˚以内、風下側に 1˚以内の傾きに収めること〕
□ダクトが取り付けられていること
□給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること（必要に応じてフラッシングを実施）
□P.2 ～ 5 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
□加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の設計要件に合っていること（表 -5、表 -6 参照）
□連動運転を行う場合は、ヒューミディスタットユニットのディップスイッチが正しい位置に設定されていること（表 -7 参照）

表 -5 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

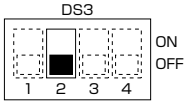
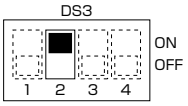
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS 設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -6 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

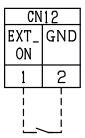
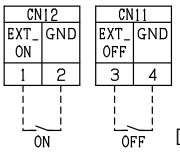
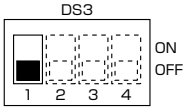
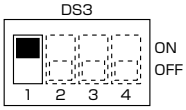
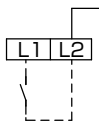
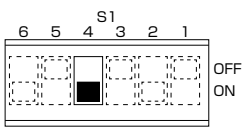
	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力	 通電電圧・電流 DC12V・10mA	 通電電圧・電流 DC12V・10mA
DS 設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.18 図 -4 参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

表 -7 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットにより連動運転を行う場合のディップスイッチ設定

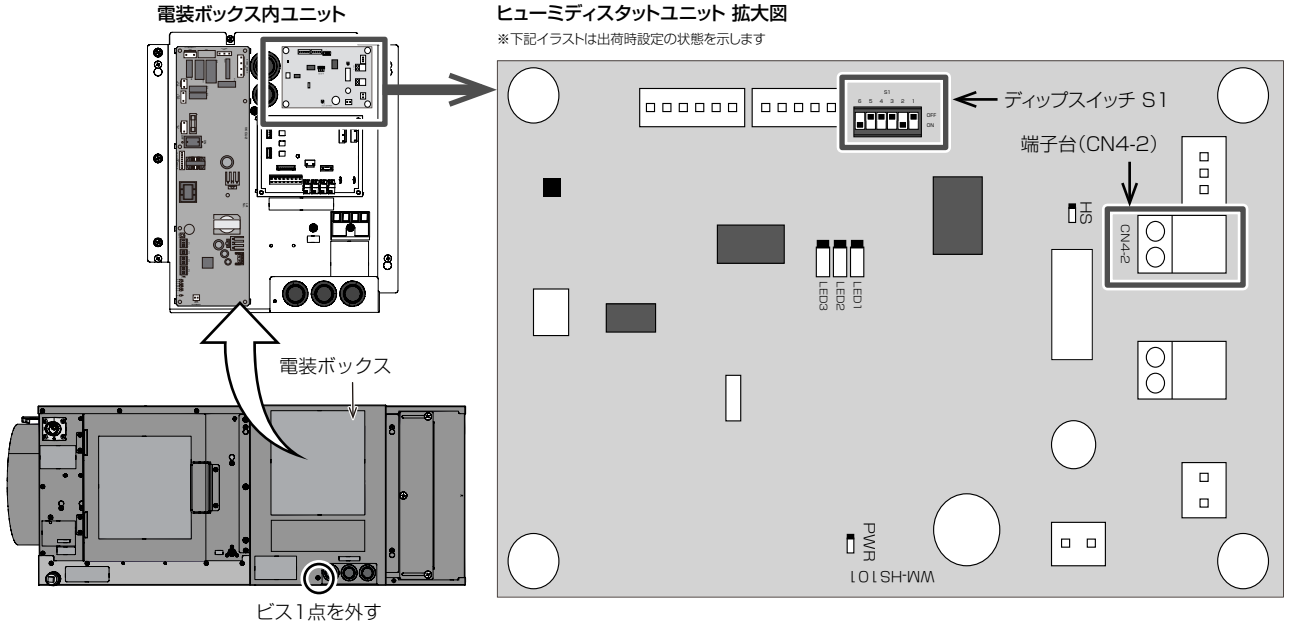
配線接続	DS 設定	備考
 通電電圧・電流 DC5V・1mA		▪ 運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。 ▪ ディップスイッチの位置は P.14 図 -2 参照。

● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

□給水サービス弁を開ける
□加湿器元電源の漏電ブレーカを遮断した後、ON にして電源を供給する
□電装ボックスカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットの CN4-2 を短絡する（図 -2 参照）
※ CN4-2 を短絡することで、加湿器本体に内蔵されたヒューミディスタットの設定湿度に関係なく運転します。
※ CN4-2 の短絡は棒端子またはより線にて接続してください。
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する
※リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。
□外部機器との連動運転を行っている場合には、連動用接点入力が ON となるように外部機器を運転する

【動画】
リモコンスイッチ初期設定

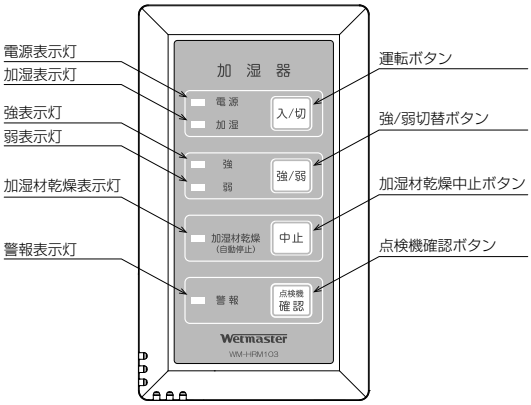
図 -2 ヒューミディスタットユニット外観略図



※ CN4-2 を短絡せず、加湿器本体内蔵ヒューミディスタットの湿度検知による試運転を行う場合は、別冊の設定要領書を参照し設定変更をおこなってください。

4-2 試運転手順

● 準備ができたら下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください(次頁の試運転チェックリストをご活用ください)。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約10分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。	※運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」「外部機器と連動設定されている」などの原因が想定されます。QRコードからFAQを参照し、原因を特定してください。
	【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 【Webサイト/FAQ】 「加湿器が運転しない」
②運転開始の約15分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットのLED10(P.18図-4参照)が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。 ③そのまま30分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。 ④強/弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、ダクトから風が出ていることを確認する。 ⑤運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、全ての表示灯が消灯することを確認する。 ⑥全ての表示灯が消灯している状態で、強/弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に3秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください(加湿材乾燥表示灯が点滅)。加湿材乾燥運転は約2時間後に自動終了します。	※ドレン排水用ポンプはドレンパンに下記程度の水量が溜まると作動します。 ▪ VIB2700、VIB2700A:約1.3ℓ ▪ VIB5200、VIB5200A:約3.4ℓ ※試運転作業中に、警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニットLEDの点灯状態を確認してください。警報表示の解除と対処方法は、P.17「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。 ※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります(加湿材乾燥表示灯が点灯)。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。

4-3 試運転後の作業と最終点検

● 加湿材乾燥が終了しファンが停止した後に、ヒューミディスタットユニットのカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットのCN4-2(P.14図-2参照)の短絡を外してください。
※短絡を外し忘れた場合、ヒューミディスタットが機能せず、常時運転ONの状態になります。
● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□加湿器本体は水平ですか?
〔やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に1°以内、風下側に1°以内の傾き〕
□給水配管からの水もれはありませんか?
□排水配管からの水もれはありませんか?
□排水配管の先下がり勾配は確保されていますか?
□各電気配線は正しく接続・固定されていますか?
□ヒューミディスタットユニットのCN4-2(P.14図-2参照)の短絡は外されていますか?

VIBタイプ 試運転チェックリスト

対象機器：滴下浸透気化式加湿器 WM-VIB2700/5200、WM-VIB2700A/5200A
湿度検知：WM-VIB2700A/5200A 内蔵ヒューミディスタット
物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（　／　）

- VIB タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置・系統	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VIB2700 または VIB5200、 VIB2700A または VIB5200A	該当する加湿器型番項目にチェック 27：VIB2700　52：VIB5200 27A：VIB2700A　52A：VIB5200A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A	□ 27 □ 52 □ 27A □ 52A
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	加湿器本体の点検扉横のシールで確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定確認	加湿器本体内コントロールユニット ディップスイッチの DS3	Ⓐ「電源表示灯と連動」（DS3 2 番ピン OFF） Ⓑ「加湿表示灯と連動」（DS3 2 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定確認	加湿器本体内コントロールユニット ディップスイッチの DS3	Ⓐ「常時入力信号」（DS3 1 番ピン OFF） Ⓑ「瞬時入力信号」（DS3 1 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
④	リモコンスイッチ 初期設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、リモコンスイッチ初期設定がされていません。強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	「設定確認モード」による ヒューミ付リモコン上の 設定確認	リモコンスイッチ	加湿器本体内蔵のヒューミディスタットによる湿度検知に設定										
			外部機器との連動設定「無」▶「有」（出荷時設定「連動無し」）	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有
⑥	湿度検知を行う加湿器本体の確認	本体内ヒューミディスタットユニット	ヒューミディスタットユニットのディップスイッチ S1 の 5 番ピンが OFF ※加湿器制御グループ（最大 10 台）の内 1 台が該当										
⑦	運転動作確認	リモコンスイッチ【起動】	ヒューミディスタットユニット端子台 CN4-2 が短絡された状態で、運転ボタン ON で加湿表示灯が点灯、10 分後に本体ファンが起動し、運転ボタン OFF で加湿表示灯が消灯しファンが停止する										
⑧	加湿モジュール湿潤状態確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑨	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑩	ドレン排水用ポンプ 動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑪	水もれが無いことを確認	加湿器本体 給排水配管	30 分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑫	運転動作確認【停止】	リモコンスイッチ	運転ボタンを押すことで、電源表示灯が消灯し、ファンが停止すること										
⑬	加湿材の乾燥	リモコンスイッチ	電源表示灯が消灯している状態で、強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅すること										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します											
⑭	湿度検知無効化の解除	ヒューミディスタットユニット端子台	端子台 CN4-2 の短絡線の取外し										

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：出荷時設定 40% RH から変更　無・有（　　% RH）

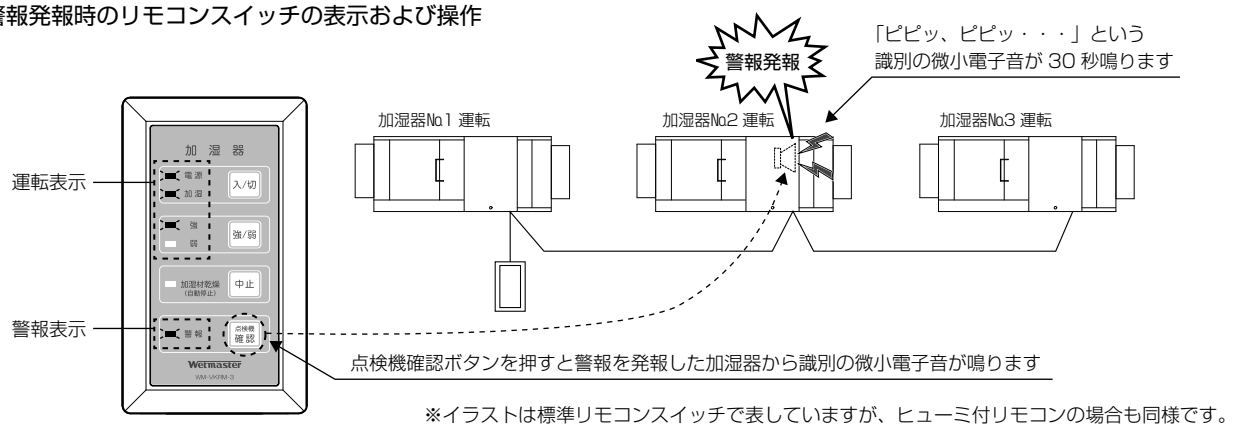
✓：実　施
×：未実施
－：該当無し

5 警報・試験について

5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について

- 1 つのリモコンスイッチで加湿器本体を複数台制御する場合には、安全保護機能が作動した加湿器のみ運転を停止します。この時、リモコンスイッチの表示は運転状態の表示と警報発報の表示の両方を表示します（図 -3 参照）。
- 警報発報時に点検機確認ボタンを押すと警報を発報した加湿器より微小電子音が 30 秒間鳴ります。加湿器本体からの電子音を確認することで警報を発報した加湿器が特定できます（微小電子音を途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します）。

図 -3 警報発報時のリモコンスイッチの表示および操作



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

5-2 警報表示の原因と処置

警報表示	警報の内容	原因と処置	
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED3（赤）が点灯	「ドレンパン高水位」を検知	原因	▪ 加湿器本体が水平でない ▪ 排水配管の先下がり勾配が不十分 ▪ 排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある ▪ ドレン排水用ポンプへの異物流入
		処置	給水サービス弁を閉めてください。原因を特定し、修正してください。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.18 図 -4 参照）。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED5（黄）が点灯	「給水電磁弁リーク」を検知	原因	給水ユニットがリークしています。
		処置	給水サービス弁を閉め、**弊社宛サービスへお問い合わせください。**
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.18 図 -4 参照）。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED5（黄）または LED7（緑）が点灯	「ドレン排水用ポンプ排水異常」を検知	原因	▪ 加湿器ドレンパン上の汚れ ▪ 排水配管の先下がり勾配が不十分 ▪ 排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある ▪ ドレン排水用ポンプへの異物流入
		処置	給水サービス弁を閉めてください。原因を特定し、修正してください。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.18 図 -4 参照）。

5-3 停電試験を行う場合

⚠ 注意

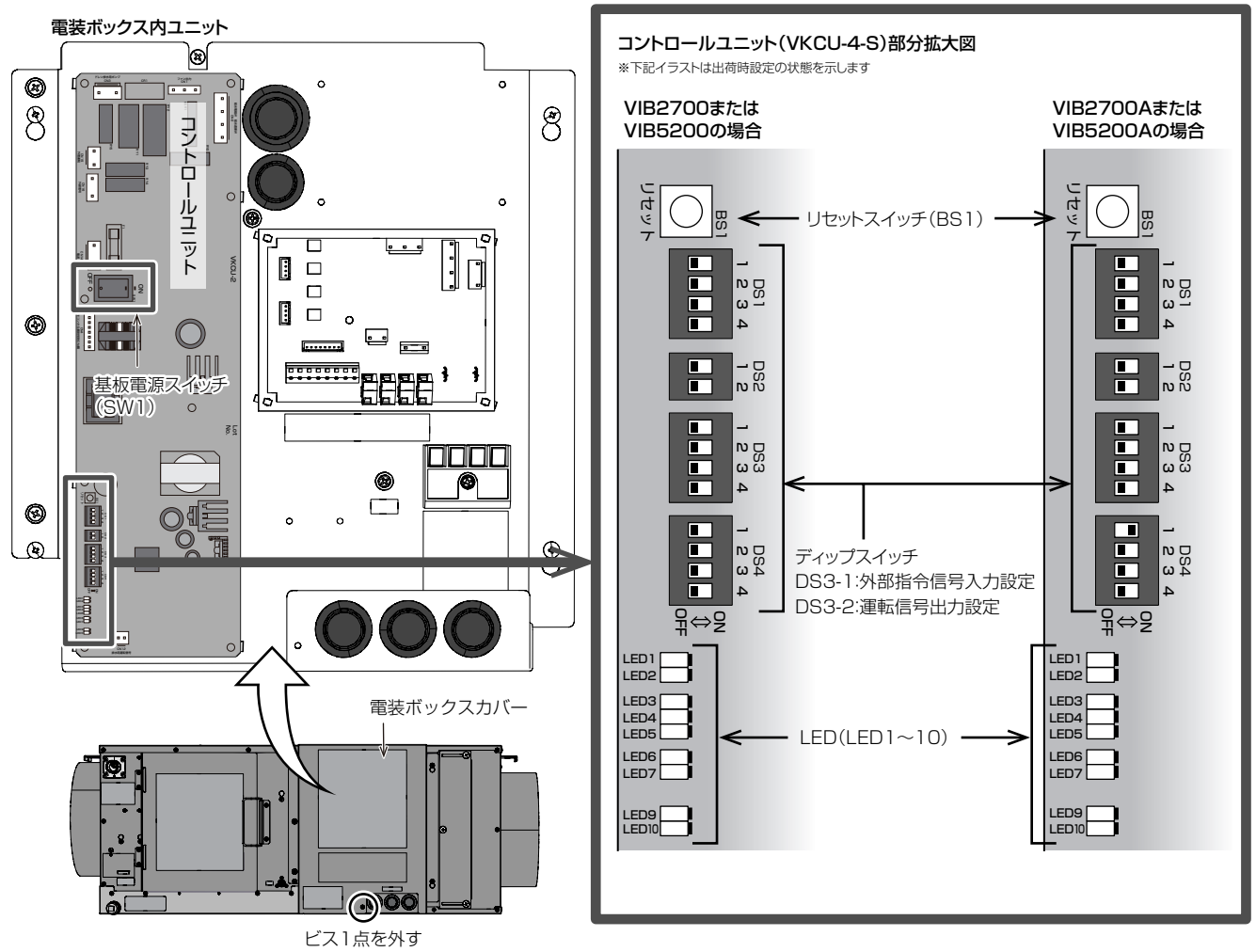
加湿器の停電試験を行う際は、必ず給水サービス弁を閉める

❗ 万一、電磁弁が故障している場合、通水状態で電源を遮断するとドレン排水用ポンプが作動せず、漏水事故の原因になります。

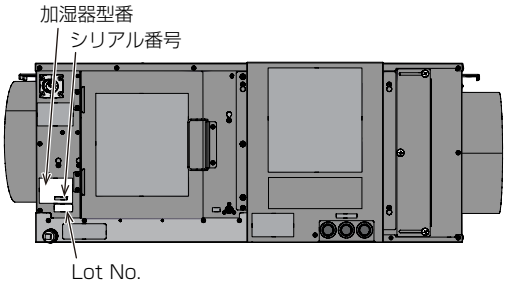
- 本加湿器の排水は、ドレン排水用ポンプによって行われます。停電試験を行う際は、あらかじめ給水サービス弁を閉め、加湿器への給水を停止してください。
- 運転中の加湿器が停電により停止した場合、復電時の自動復帰は行いません。リモコンスイッチまたは外部指令信号による手動での運転復帰が必要です。
- 瞬間停電の場合は、0.02 秒以下であれば、運転を保持します。
- 停電試験の実施（給電 OFF）に伴い、定時乾燥タイマーはリセットされます。

6-1 コントロールユニット詳細

図 -4 コントロールユニット外観略図



6-2 加湿器型番、シリアル番号、ロット番号表示位置



ウエットマスター株式会社

本社営業本部 〒161-8531　東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル　TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守･サービス営業本部	〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター	TEL.03-3954-1110
大 阪 支 店	〒540-0024 大阪市中央区南新町1-1-2 タイムスビル	TEL.06-4790-6606
名古屋営業所	〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル	TEL.052-745-3277
仙 台 営 業 所	〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-7	TEL.022-772-8121
福 岡 営 業 所	〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10	TEL.092-471-0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

https://www.wetmaster.co.jp

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

5710-019601